

## 1 メジャラー

この章はメジャラーの役割、その資格、任命、遂行と責任を考察し、このマニュアルの残りへの導入としての役を負う。

### 1.1 メジャラーの役割

艇は主としてクラス規則への適合を立証するために計測されるが、適合をチェックする場合種々のケースがあり、メジャラーの役割は次の通りそれぞれのケースで変わる。

#### (a) 証明のための計測

ほとんどのクラスで、新艇すべてにレースに参加する前に、クラス規則に従って建造されたことを立証するために計測されることを求めている。新艇が計測され、クラス規則に適合していると判明した時点で、クラスのレースへの参加資格の証明としてオーナーが保持しなければならない計測証明書が通常発行される。RRS 78。証明のための新艇の計測手順は、3章で扱っている。

#### (b) 改造の計測

RRS 78 は、すべての改造がクラス規則に従っていることを確実にすることに関してはオーナーの責任としているが、ある交換、例、セール、およびかなりの修理のようなその他の改造は、レース前に計測されなければならないことが、通常クラス規則での要件である。時には、特に重さが変わったり、補正おもりを移動したり、追加した場合には、計測証明書への裏書きが求められる。改造の計測手順は4章で扱っている。

#### (c) 定期計測

少数のクラスで、ときには浮力その他の安全要素をチェックするために、またできる限り大型艇の重さをチェックするために、艇の定期計測チェックを求めている。

#### (d) 装備検査 (レガッタ計測)

クラス規則への適合をチェックするための正式の計測は、主要な競技会で艇の重さやセール計測のような一定の項目のみをチェックすることから競技艇すべての全計測まで多種多様に行われている。レガッタ計測は6章で扱っている。世界選手権や大陸選手権のような主要なレガッタでは、この任務は理想的にはインターナショナル・メジャラーにより行われなければならない。

#### (e) プロトタイプ計測

大多数の新艇は「プロダクション」ボートである。即ち、1回限りの艇や顧客設計の艇のシリーズとしてよりむしろプロトタイプ艇として同じ仕様で建造業者により量的に生産されている。これらの場合、特にGRPその他の成型艇について、プロトタイプの完全な計測は、その後のプロダクション・ボートでの計測問題を最低にする助けとなり得る。この理由として、プロトタイプ艇(モールドからの最初の艇)はその後の艇の製造開始前に計測され、承認されることが多くのISAF国際クラスの要件である。

#### (f) バッチ計測

プロトタイプの承認を必要とするクラスは、時にはそれぞれのバッチから1艇、たとえば10番目ごと、に全計測を実施することを条件にその後の艇の計測を減らしたり、行わないことすらある。

### 1.2 メジャラーの資格

メジャラーの仕事には、クラス規則を読んで、理解して、クラス規則を正しく適用する能力、長さ、重さ、その他の物理的パラメーターの正確な計測を行う能力を含む、テクニカルな技量を必要とする。5章には正確な計測に関するテクニックを記述しているが、詳細に述べられているクラス規則に記述されたとおりに計測することが必須である。

メジャラーは、標準の測定工具、8章に詳しく述べたより特殊な工具の使い方を熟知していなければならない。自分で特別の工具を作る能力もまた、幅広い工具キットで素早く効率的な計測が行うために役に立つ。いくつかのクラスではそのクラスのために用途で設計した工具キットを売っている。

レガッタ計測では、メジャラーは時間的圧力なしにほとんどが1つの艇について作業している改造の証明と違って、メジャラーはほとんどが時間に対して作業しなければならない、正確さと同様早く作業する能力が重要である。従って、レガッタ・メジャラーはスパーや艇体計測用ジグのような、計測のプロセスを早くするために特殊な器具の設計と関係することがある。レガッタ・メジャラーは、おそらくチームを指揮して、チームの一部として作業でき、計測を手伝う補助員を訓練できる必要もある。

レガッタ・メジャラーは、計測の抗議の場合に、RRSに述べられている手順に正しく従わなければならないので、RRSの関係部分を理解することが必須である。RRSはメジャラーが知ってなければならない広告その他のセールのマーク付けについてのその他の要件も含まれている。

個人が計測の技量を身につけるための最もよいやり方の一つは、レガッタ・メジャラーを手伝う補助員としてレガッタに参加することである。ほとんどのクラスは通常この範囲での補助の申し出を歓迎する。いくつかのクラスと国内競技連盟はメジャラーを訓練するために時々セミナーやコースを開いている。

## 1.3 計測員の任命と権限

何らかの理由で艇のために計測する前に、メジャラーはその計測を引き受けるために適切な機関より確実に任命されていなければならない。メジャラーを任命する組織とメジャラーに与える権限は、計測の種類と各国協会 (NA) により変わってくる。

### (a) オフィシャル・メジャラー

証明または改造の計測には、メジャラーはクラスを管理する組織により承認され、権限を与えられていなければならない。この組織は、通常オーナーまたは建造業者が住んでいる国の各国協会 (NA) であるが、いくつかのクラスでは、国内クラス協会か国際クラス協会であり、この場合メジャラーはクラス協会により計測についての権限が与えられることがある (ライトニング、スナイプ、スター)。

各国協会とクラスの両方が計測活動を知ることができるように、メジャラーは両組織により承認され、言い換えれば登録されることが多い。ただし、両組織のうち一つだけがメジャラーの報告書进行处理し、計測証明書を発行する責任のある管理機関である (3章参照)。オフィシャル・メジャラーはクラス規則により必要とされる計測を記録するだけで、計測証明書を発行する権限は与えられておらず、従って報告するだけである。

いくつかのクラスと各国協会は、メジャラーに現在のメジャラーと一緒に訓練するか、または承認を与える前に、艇の計測に関するセミナーに参加し、試験に合格することを求めている。クラスには、多くの場合、メジャラーの訓練と任命を調整するためにチーフ・メジャラーがいる。

ほとんどがセールと装備を含む艇のすべての面で計測するために訓練され、権限が与えられているが、時にはメジャラーは特定の業務のみ、例えばセール計測や艇体計測、に権限が与えられている。

### (b) イクイPMENT・インスペクター

イクイPMENT・インスペクターは、通常レース委員会 (またはレガッタ主催者) により任命され、主催者により求められた装備検査を行う権限が与えられている。経験のあるクラス・メジャラーや各国協会メジャラーにより監督されるという条件で、多くの大会インスペクターが以前に計測経験が僅かないしは全くない補助員であることは容認されている。

インスペクターは、艇がクラス規則に従っていないことをわかった、または思ったことを理由に、レガッタへの参加を拒否する権限はないが、そのことを書面でレース委員会に報告しなければならない、レース委員会はその艇を抗議しなければならない (RRS 78.3)。従わなければならない手順は、6章と7章で扱っている。

### (c) インターナショナル・メジャラー (IMs)

1980年からIYRU (現在のISAF) は、特に幅広い経験とメジャラーを承認しているクラスの知識のあるメジャラーをインターナショナル・メジャラーとして認めた。ERSの2009年版によれば、インターナショナル・メジャラーは特定のクラスのプロトタイプ艇を検査するためにISAFにより権限が与えられ、そのクラスの国際大会での装備検査を補佐する資格があるとしてISAFにより承認された人たちである。インターナショナル・メジャラーは、計測事項についてISAFからクラスへの連絡の直接電話をする。インターナショナル・メジャラーはその経験を伝え、他のメジャラーを訓練するのがよく、そのことにより計測の一般標準の改善をもたらす。インターナショナル・メジャラーは、管理が行われる国のMNAまたはその特定のクラスにより任命または承認されたオフィシャル・メジャラーでもある場合には、証明のための計測をするときにクラスまたは各国協会メジャラーとしての同じ権限がある。

インターナショナル・メジャラーに任命されるには、メジャラーの申請が当該国際クラス協会、各国協会および他のIMにより支持され、最終的にISAFにより承認されなければならない。IMの役割のこれ以上のことは、下記1.5章にある。

### (d) プロトタイプ計測

プロトタイプ承認を条件として建造業者の承認に責任のある組織は、プロトタイプを計測するメジャラーを任命する責任がある。ISAF認可建造業者のある国際クラスの場合、この組織は国際クラス協会と協議するISAFであり、国際クラス協会は各国協会と国内クラス協会と協議する人物を任命する。任命されたメジャラーは通常そのクラスのインターナショナル・メジャラーであるが、場合によっては非常に経験のつんだクラスまたは各国協会のオフィシャル・メジャラーであることもある。

### (e) 検査

艇が規則への適合に関するいくつかの情報を立証したい場合には、クラスを管理する機関は、メジャラーにいつでも艇の単独の計測検査を行う権限を与えることができる。オーナーは、その意図を事前通知を受け、あらかじめ合意した場合を除き、検査に対する料金は要求されない。

## 1.4 メジャラーの実際

メジャラーは、セーラーがセーリングの管理者とその役員に確実に秘密とし、規則と手順に正しく従っていないためのその後の批判や処置を確実に公開しないことを専門家としてのやり方で自分の仕事を行う。次の点を覚えておくことを勧める。

### (a) 正式手続き

クラス規則の初めにある一般管理規則は、メジャラー、建造業者、オーナーが正式に計測され証明された艇を得るために従うべき手順を述べている。メジャラーがこの規則を確実に理解し、正しく適用することを確実にすることが重要であり、メジャラーは管理機関の代理人として行動していることを覚えておく。

### (b) 誠実

メジャラーは完全に公平でなければならない。誠実さへの疑問を防ぐように、メジャラーは、自分がオーナー、設計者またはオーナーである、または自分が個人的にかかわりあい（例、自分が乗員メンバーである場合）または計測料の受け取り以外の金銭的にかかわりあいのある、艇またはその装備を計測するのを通常は許されない。この規則の例外は、現行 ISAF の IHC（製造業者認証）体系で自身の装備の計測を認可された艇と装備の製造業者になされている。

### (c) 計測料

メジャラーは建造業者またはオーナーに対するサービスに関して報酬を求めるとよい。多くの各国協会とクラスは計測に対し請求される計測料を定めており、この場合、料金の程度は請求金額の基準とすることを勧める。かなりの旅行が含まれる場合には、メジャラーは、旅費が計測料に加えて確実に賄えるようにする。

### (d) 旅費

証明と改造のためのほとんどの計測は、旅費を減らすために地元で行われるが、時にはメジャラーは、本国以外の国での計測を求められたり、要求されたりする。礼儀として、メジャラーは常に訪問予定の国の各国協会に知らせることを勧める。

### (e) 裁量

メジャラーは、その艇が使用できる前に相当の修正を必要とすることを知ったばかりのオーナーまたは建造業者の感情を大事にすることを勧める。ただし、メジャラーは、レースするときにクラス規則すべてに縛られる最終のオーナーのためにその艇をチェックしていることを覚えておかなければならない。従って、メジャラーは、ある項目は重要でないとか、艇のスピードに影響しないという考えにより自身を左右させてはならないし、また許されている以外の追加の公差を認めてはならない。

### (f) メジャラーの義務

どんなに勤勉でも、メジャラーが規則の誤った解釈の結果として、またはことによると数字の誤りのいずれかで、誤りを犯すことは考えられる。うまくいけば、このマニュアルを注意深く検討することは、誤りを最低にする助けになり、誤りはより少なくなる。ただし、後日に艇への小修正さえも金のかかる実習となり得、オーナーはメジャラーに対して苦情を言おうとすることがある。

このような可能性をカバーするために、メジャラーはある種の賠償保険に入ることができる場合には、最善であり、いくつかの各国協会とクラスはこのような体系を運用している。

### (g) メジャラーの報告

計測で艇がクラス規則のすべての項目に適合していることを立証するという目的を達成した場合には、艇がだれにどこで計測されたかにかかわらず、すべてのクラス規則の解釈が不変でなければならないことが必須であることが次にくる。従って、メジャラーは、何らかの項目の合法性について疑いを持った場合には、助言を受けるためにそのことを管理機関に報告することを勧める。また、メジャラーからのこのようなフィードバックの結果として、経験で教えられ、規則が定期的に更新され、将来のために改善され得る。

有能なメジャラーはアイディアと規則で見つかった誤りを報告するとよく、効果的に規則の保護者である管理者のチームの一員であることを覚えておく。

## 1.5 インターナショナル・メジャラーの役割

ISAF ERS C.4.6 によるインターナショナル・メジャラーの基本的な定義は、上の 1.3 章 (c) 項に述べてある。ISAF 規定 35.3 は IM としての初任命の要件を扱っており、規定 35.5 には IM の資格を述べており、規定 26.5 (g) には IM に関するクラスの責任を扱っている。ISAF 規定の抜粋を下に挙げる。

### インターナショナル・メジャラーとしての初任命の要件

- 33.5 初任命の候補者は、次でなければならない。
- (a) 候補者の加盟各国協会、クラス/オーナー協会またはレース・オフィシャル委員会より候補者として指名されること。
  - (b) 候補者の加盟各国協会より推薦されること。
  - (c) 9月1日までに事務局長が受理するように、正式書式の申請書を送付すること。
  - (d) 一般的資格と関係する分野に関する追加の資格に適合していること。
- 33.6 再任命の候補者は、次でなければならない。
- (a) ISAF に直接申請すること。
  - (b) 9月1日までに事務局長が受理するように、正式書式の申請書を送付すること。
  - (c) 一般的資格と関係する分野に関する追加の資格を満たしていること。

### すべてのインターナショナル・レース・オフィシャルについての全般要件

- 33.9 すべての分野の任命または再任命の候補者は、次でなければならない。
- (a) インターナショナル・メジャラーの場合を除き、経験のある競技セーラーであること。
  - (b) 競技規則の十分な知識と規則、マニュアル、その他の要件および自身の分野に関する公表物の詳細な知識を有すること。
  - (c) 英語が堪能であり、他のレース・オフィシャルと競技者の両者に自身の分野に関する事項について伝える技能を有すること。
  - (d) 大会でインターナショナル・レースオフィシャルとして期待される気質と態度を示すこと。
  - (e) 自身の分野の要件を遂行する健康と体力を有すること。
  - (f) 自身の分野の義務を実行するために必要な観察力と技能を有すること。
  - (g) ISAF の方針およびさらに ISAF の目標、規則、規定を支援することに同意すること。
  - (h) 自身の分野の義務を実行できるレベルで、生まれながらまたは修正して、視力と聴力が損なわれていないこと。
  - (i) 自身の分野に関するプログラムの開発に貢献できること。

### 個々の分野についての追加の資格

#### インターナショナル・メジャラー

- 33.13.1 任命は特定のクラスについて行われる。インターナショナル・メジャラーは、最大3クラスにのみ任命されることができる。ただし、クラスがすでにインターナショナル・メジャラーとして任命されているクラスの計測と極めて類似している場合には、レース・オフィシャル委員会は追加のクラスを認定することができる。
- 33.13.2 インターナショナル・メジャラーとしての任命候補者は次でなければならない。
- (a) 申請の年の9月1日以前の最近4年間に、申請しているクラスの最低2つの主要な大会（インターナショナル・メジャラー小委員会で決める）でイクイブメント・インスペクターとして務めたこと。
  - (b) 申請の年の9月1日以前の最近4年間でその年の10月14日までに、ISAF インターナショナル・メジャラー・セミナーに出席したこと。
  - (c) 当該クラスと ISAF セーリング装備規則を熟知していること。
  - (d) 当該クラス協会と別のインターナショナル・メジャラーにより推薦されていること。
- 33.13.3 インターナショナル・メジャラーとしての再任命候補者は、次でなければならない。
- (a) 申請の年の9月1日以前の最近4年間に、2つの主要な大会（インターナショナル・メジャラー小委員会で決める）でイクイブメント・インスペクターとして務めたこと。大会の1つは、申請しているクラスの大会でなければならない。代替の方法として、大会の1つは、申請しているクラスの艇体のプロトタイプ計測により置き換えることができる。
  - (b) 当該クラスと ISAF セーリング装備規則を熟知していること。
  - (d) 当該クラス協会により推薦されていること。
- 33.13.4 任命された時点で、インターナショナル・メジャラーは、そのクラスの建造業者のコンサルタントまたは正規のオフィシャル・メジャラーとして雇われたり、努めたりしてはならない。

メジャラーの役割 (IM マニュアルの抜粋)  
インターナショナル・メジャラーの役割 (ISAF 規定の抜粋)

2009年3月 高田俊男氏訳

規定 26.5 (g) (v) によれば：クラスは次でなければならない。

- 1) クラスを地域的に代表するために十分な ISAF 承認クラス・インターナショナル・メジャラーがいること。
- 2) クラス・インターナショナル・メジャラー最低 1 名がそれぞれの ISAF 装備検査シンポジウムに確実に出席すること。
- 3) クラス・インターナショナル・メジャラー最低 1 名をクラス世界選手権に出席させること。
- 4) インストラクターとしてクラス・インターナショナル・メジャラーとともにクラス・イクイPMENT・インスペクターを訓練するために定期的クラスの装備検査セミナーを計画すること。
- 5) クラス・インターナショナル・メジャラーのみが成型プロダクション・ボートのプロトタイプを確実に計測すること。

従って、IM の役割はそのクラスの主要な大会の装備検査を指揮し、クラス・イクイPMENT・インスペクターを訓練し、そのクラスのプロトタイプを計測することにある。実際問題として、インターナショナル・メジャラーは、主な役割を遂行するために次の必要な技量を持っていることを勧める。

- クラス規則進展の知識を含む、深いクラスのバックグラウンドのあるテクニカルな専門家であること。
- クラス規則、ERS、製図、構造図、技術仕様を読んで理解する能力があること。
- 計測と電動工具での実際的な技量があること。
- 技術英語を音声で理解できること。
- 人の管理技量：関係する人たち（セーラー、コーチ、ジュリー、レース委員会、主催者、クラス・オフィサー）との効果的に伝達する能力。必要性が生じた場合に、混乱を起し、興奮した人たちと話し合いし、抑制する能力。
- 専門的事実を（専門家でない）ジュリーにはっきりと表現できる能力があること。

IM の主な責任は、次の通りに要約することができる。

- IM に対する行動規範に従うこと。
- すべての装備がクラスに適合しており、チームが対等のチーム（イクイPMENT・インスペクターとして）と競い合っていることを確実にする。
- その仕事で高度な一貫性と正確さを保つこと。
- 全般および計測特にプロトタイプ計測の情報を ISAF とクラス内で秘密に保つこと。
- そのクラスの計測プロセスについて人を訓練すること。クラス規則をセーラー、コーチに説明すること。計測ガイド、書式その他でクラスを支援すること。
- 器具の新改良と現行規則の欠点を含み、クラス技術委員会にフィードバックすることによりクラス規則発展に参加すること。
- 用具とテクニックの開発を追求すること。

## 1.6 インターナショナル・メジャラーの行動規範

ISAF インターナショナル・メジャラーは、セーリング・スポーツの最も無防備な競技役員である。従って、インターナショナル・メジャラーは高度な能力、礼儀、誠実にふるまい、セーリング・スポーツに悪評をもたらすようなことは決してしてはならない。インターナショナル・メジャラーは、ISAF の方針に従う。そうしないメジャラーは、任命が終了する恐れがある。明確にメジャラーは期待されている。

- (a) 計測マニュアルはもちろん当該クラス規則と競技規則と ISAF ERS の高度な知識を維持すること。
- (b) 常に公平で、礼儀正しく、親切であること。このことは競技者に対してのみでなく、同僚、コーチ、レガッタ・オフィシャル、主催者、その他のレガッタの運営に関与している人々に対しても重要である。
- (c) イクイプメント・インスペクターになる招待を受諾する前に利害の対立を公表すること（下記と ISAF 規定 50 参照）。
- (d) すべての審問と関与したすべてのその他の事項を、注意して、慎重に、客観的に、かつ偏見なしに扱い、個人的利害が判断に確実に影響しないようにすること。
- (e) 公正に行い、公正に行っていると確実に見られること。
- (f) クラス規則と競技規則の手順に従い、これらおよび他の公式出版物に公表されている ISAF 方針を促進し、支援すること。
- (g) 競技者、ジュリー、または建造業者の秘密を漏らさないこと。現行のクラス規則に適合している限り、建造業者の構内で気づいたこと（予感がある場合には、公表しないで、クラス・チーフ・メジャラー、自国の NA または ISAF のいずれかと連絡を取ることを）、または大会期間中および大会後にジュリーの審問外の個々のケースに関するジュリーの討議を公表しないこと。
- (h) 計測または審問またはジュリー・ミーティングの前とその間にはアルコール類を摂取せず、大会期間中常に酔っぱらわないで、常に厳然として礼儀正しく行動すること。
- (i) 計測とセール検査の間、ジュリー・ルーム内、または他の競技役員とジュリー・ボードで任務にあっている間、喫煙しないこと。
- (j) 計測検査やジュリー・ミーティングには時間どおりとし、検討中の事項には最大限の注意を払うこと。
- (k) 開会式から最終レース後の抗議締切時間まで、計測の抗議が提出された場合には、そのあとまで、とどまるように計画すること。
- (l) 水上でも陸上でも適切な衣服を着用すること。
- (m) 必要以上の費用を受けないこと、関係する場合、正当な必須の費用のみを請求すること。
- (n) 数日続くことがある大会での集中心、観察力および聞く技量を保つために、身体の健康の好適な基準を保つこと。
- (o) 文化の違いを知っておくこと。
- (p) 目に見えて、近づきやすいままであり、大会での IM から期待される気質と態度を見せること。
- (q) 別の観点で見て、常にそつがないこと。
- (r) 難しい決定を行う能力を持ち、圧力の操作ができるが、クラス規則の解釈を行わないこと。クラス規則が解釈に対してオープンである場合、ISAF 規定 26.11 に概説されている方針に従わなければならない。
- (s) 艇の性能に影響もしくは最大限に生かす方法、または建造技術を最大限に生かす方法に関してオーナーや建造業者に助言しないこと。
- (t) 「計測のための計測はない」を銘記してクラス規則の改良/平易化でクラス協会を支援しなければならない。

### 利害の対立 (ISAF 規定 50 : 利害の対立の抜粋)

- 50.1 利害の対立は、ISAF レース・オフィシャルが、公正であるべき ISAF レース・オフィシャルの責務に影響を与え得る個人的または金銭的利害を持っている、またはかなり持っているように見える場合に存在する。
- 50.2 ISAF レース・オフィシャルが利害の対立に気づいた場合、インターナショナル・ジュリーが任命されるレガッタで任務を果たすための招待を辞退しなければならない。
- 50.3 ISAF レース・オフィシャルが利害の対立があるか否かについて何らかの疑いがある場合、ISAF レース・オフィシャルは、招待を受諾する前に、直ちに ISAF の意見を求め、その決定に従わなければならない。
- 50.4 大会で、ISAF レース・オフィシャルが利害の対立に気づくようになった場合、ISAF レース・オフィシャルは起こり得る対立をインターナショナル・ジュリーに公表しなければならない、インターナショナル・ジュリーは適切な処置を取らなければならない。